

国立環境研ら

再生石こう粉の利用促進

指針試行版の試験運用開始

品質均一化へ管理徹底

国立環境研究所や福岡大学、愛知工業大学、日本能率協会総合研究所、泥土リサイクル協会らは「再生石膏（せっこう）粉の有効利用ガイドライン」試行版の試験運用を開始した。ガイドラインは「再生石こうボードを再生した石こう粉につい

て、品質の管理や均一化を目的に策定。試行版を中間処理業者に活用してもらい、必要に応じて内容を修正していく。

同ガイドラインは、環境研らが環境省の環境研究総合推進費を使って取り組む「廃石膏ボードリサイクル

の品質管理の在り方と社会実装（17、18年度）」の一環として取りまとめた。各分野の専門家やゼネコン、建設コンサルタントの担当者で構成し、行政機関や関係団体がオブザーバーとして参加する「再生石膏粉の有効利用ガイドライン策定委員会」（委員長・佐藤研一、福岡大工学部教授、事務局・泥土リサイクル協会）と、下部組織の作業部会で検討してきた。

内容は▽総説▽再生石こう粉や再生石こう粉を用いた固化材等の基本的事項▽再生石こう粉の品質管理▽再生石こう粉を用いた固化材・改質剤の地盤利用▽その他分野への適用と展望の5章構成。中間処理業者が製造する再生石こう粉の品質をより良いものにするために利用してもらう。

ガイドラインは再生石こう粉の均一な品質を担保するため管理の徹底を促し、利用を後押しする狙いがある。同協会は本年度、自治体への訪問や講習会の開催、展示会への出展などでガイドラインの周知を図る。

解体した建築物などから出る石こうボードは年々排出量が増加している。石こうボードのリサイクルを目指す動きはあるものの、再生品の品質にばらつきがあるなど、リサイクルシステムが確立されているとは言い難い状況にある。環境面の安全性も担保されているとはいえず、再利用が遅れている。